

(様式第9)

関枚発第09X01号  
平成21年10月3日

厚生労働大臣 殿

開設者名 大阪府守口市文  
学校法人 関西  
理事長 塚原

関西医科大学附属枚方病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	79.6 人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	273人	94人	295.1人	看護業務補助	19人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	0人	0人	0人	理学療法士	9人	臨床検査技師	62人
薬剤師	52人	0人	52.0人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人	その他	1人
助産師	30人	0人	30.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	720人	42人	750.4人	臨床工学技士	10人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	2人	0人	2.0人	栄養士	0人	その他の技術員	10人
歯科衛生士	0人	0人	0人	歯科技工士	0人	事務職員	56人
管理栄養士	5人	5人	5.9人	診療放射線技師	36人	その他の職員	1人

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	617人	0人	617人
1日当たり平均外来患者数	1,714人	0人	1,714人
1日当たり平均調剤数	675.8 剤		

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届出受理の有無および取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症摘出術	有・無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション(前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷に係るものに限る。)	有 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)	有 無	人
胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。)	有 無	人
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	有 無	人
顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)	有 無	人
顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。))に係るものに限る。)	有 無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)	有 無	人
人口括約筋を用いた尿失禁の治療	有 無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齶蝕の修復に係るものに限る。)	有 無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)	有 無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)	有 無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)	有 無	人
CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る。)	有 無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンビン欠乏症、第Ⅶ因子欠乏症、先天性アンチトロンビンⅢ欠乏症、先天性ヘパリンコファクターⅡ欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)	有 無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有 無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有 無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)	有 無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有 無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断(子宮頸部軽度骨異形成に係るものに限る。)	有 無	人
腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)	有 無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有 無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)	有 無	人
成長障害のDNA診断(特発性低身長症に係るものに限る。)	有 無	人
門脈圧亢進症に対する経経静脈肝内門脈大循環経路術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は、難治性肝性胸水に係るものに限る。)	有 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
乳房温存療法における鏡視下腋窩廓清術(主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
声帯内自家側頭筋膜移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症、バージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
鏡視下肩峰下腔除圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞蹈病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損(角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒痕、瞼球癒着(ステューブ・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷癒痕その他の重症の癒痕性角結膜疾患を含む。))結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険郡と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
神経芽腫のRNA診断	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定型抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
膵腫瘍に対する腹腔鏡下補助下膵切除(インスリノーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
悪性腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。))による治療が困難なもの慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
活性化Tリンパ球移入療法(原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードVの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移又は画像上リンパ節転移が疑われるものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植(HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
頰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術(頰椎椎間板ヘルニア(画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のも(後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
ケラチン病の遺伝子診断(水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有 <input type="radio"/>	人
末梢血幹細胞による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
末梢血単核球移植による血管再生医療(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術(双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例(妊娠十六週から二十六週に限る。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法(肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断(ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。))のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法(ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存(骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性(欠損性又は感染性偽関節に係るもの)に限る。)、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人口関節置換術時(初回又は再置換術時に限る。))の広範囲欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定症に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除術(難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果がみとめられないもの)に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価(骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後若しくは骨髄炎掻爬術後の症状に係るもの)に限る。)	有 <input type="radio"/>	人
膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るもの)に限る。)	有 <input type="radio"/>	人
色素性幹皮症に係る遺伝子診断	有 <input type="radio"/>	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有 <input type="radio"/>	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法(歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るもの)に限る。)	有 <input type="radio"/>	人
セメント固定人口股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術(人工股関節のたるみに係るもの)に限る。)	有 <input type="radio"/>	人
腹腔鏡下直腸固定術(直腸脱に係るもの)に限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	9 人
骨移動術による関節温存型再建(骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るもの)に限る。)	有 <input type="radio"/>	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション(原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るもの)に限る。)	有 <input type="radio"/>	人
樹上細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管腫瘍(食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がん)に係るもの)に限る。)	有 <input type="radio"/>	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有 (無)	人
自己腫瘍・組織及び樹上細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有 (無)	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有 (無)	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したのものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器科がんから転移したのものに限る。))に係るものに限る。)	有 (無)	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	有 (無)	人
先天性難聴の遺伝診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに限る。)	有 (無)	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はヒオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)	有 (無)	人
培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酵素補助療法による治療ができないものに限る。)	有 (無)	人
腹腔鏡下子宮体がん根治術(手術進行期分類 I b期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有 (無)	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有 (無)	人
RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	有 (無)	人
角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)	有 (無)	人
強度変調放射線治療(局限性の固型悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって原発性のものを除く。))に係るものに限る。)	有 (無)	人
マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経症(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異形内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)	有 (無)	人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)	有 (無)	人
光トポグラフィー検査を用いたうつ病の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第3条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告知第七十六号)の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。))においてF2(統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾病及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。))に係るものに限る。)	有 (無)	人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下枝慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血流が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有 (無)	人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小臼歯の重度の齶蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	有 (無)	人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。))又は腺腫(EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。))に係るものに限る。)	有 (無)	人
実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	有 (無)	人
無拘束型多点減圧シートセンサを用いた検査(閉塞性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる症状(習慣性がある激しいいびき、日中の傾眠等をいう。))及び所見(肥満、薬物療法に対して抵抗性を有する高血圧等をいう。))が認められる者又は中枢性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる慢性心不全の者に係るものに限る。)	有 (無)	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/>	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有 <input type="radio"/>	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨節又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは臼蓋骨折に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 無	40 人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有 <input type="radio"/>	人
カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
胎児尿路・羊水腔シャント術(プルーン・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 無	0 人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 無	0 人
内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後のよい甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。))に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 無	4 人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症(NIHF)例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯溜が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有 <input type="radio"/>	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)	有 <input type="radio"/>	人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人
内視鏡下手術用ロボットを用いた冠動脈バイパス手術(虚血性心疾患に係るものであって、一箇所を吻合するものに限る。)	有 <input type="radio"/>	人

(注)1「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	84人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	15人
・多発性硬化症	6人	・ウェゲナー肉芽腫症	26人
・重症筋無力症	39人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	28人
・全身性エリテマトーデス	326人	・多系統萎縮症	5人
・スモン	1人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人
・再生不良性貧血	60人	・膿疱性乾癬	4人
・サルコイドーシス	144人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・筋萎縮性側索硬化症	3人	・原発性胆汁性肝硬変	191人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	133人	・重症急性膵炎	16人
・特発性血小板減少性紫斑病	161人	・特発性大腿骨頭壊死症	78人
・結節性動脈周囲炎	13人	・混合性結合組織病	20人
・潰瘍性大腸炎	176人	・原発性免疫不全症候群	19人
・大動脈炎症候群	25人	・特発性間質性肺炎	13人
・ピュルガー病	33人	・網膜色素変性症	100人
・天疱瘡	41人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	11人	・原発性肺高血圧症	6人
・クローン病	84人	・神経線維腫症	69人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	6人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	26人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・パーキンソン病関連疾患	191人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	1人
・アミロイドーシス	34人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	4人
・後縦靭帯骨化症	126人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・ハンチントン病	1人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床検査部：血糖103回、小児科2回(顕微鏡を用いて) 病理部：腎生検48回、乳ガン48回、胃ガンカンファレンス12回、剖検36回	
剖検の状況	剖検症例数 42 例	剖検率 8.6 %

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
神経板の発達における遺伝子発現に関する検討 ー特に外胚葉・中胚葉との関連についてー	稲垣 隆介	脳神経外科	200,000	補 委	文部科学省 科学研究費補助金
末梢血流動態から見た各種病態における運動耐容能および運動療法効果の検討	木村 穰	第二内科	500,000	補 委	文部科学省 科学研究費補助金
経皮的生体内管腔臓器バイパス術の開発	澤田 敏	放射線科	2,200,000	補 委	文部科学省 科学研究費補助金
噴門側胃切除後の残胃運動機能に関する臨床研究	中根 恭司	外科	600,000	補 委	文部科学省 科学研究費補助金
急性脳虚血における白質病変の重要性と治療に関する研究	中尾 慎一	麻酔科	1,600,000	補 委	文部科学省 科学研究費補助金
泌尿器腹腔鏡手術における技術評価方法に関する研究	松田 公志	泌尿器科	300,000	補 委	文部科学省 科学研究費補助金
一酸化窒素の産生誘導を指標とした小腸移植における腸管適応促進剤のスクリーニング	濱田 吉則	外科	1,200,000	補 委	文部科学省 科学研究費補助金
脂肪組織幹細胞から誘導した骨による3次元形状骨の形成に関する研究	楠本 健司	形成外科	1,100,000	補 委	文部科学省 科学研究費補助金
自己免疫性膵炎および硬化性胆管炎における発症機序と進展に関する免疫学的研究	岡崎 和一	第三内科	1,500,000	補 委	文部科学省 科学研究費補助金
ファイブロネクチンを用いた多剤耐性緑膿菌制御の検討	権 雅憲	外科	1,400,000	補 委	文部科学省 科学研究費補助金
難治性疼痛を有する脊椎圧迫骨折に対する椎体形成術の除痛機序の実験的解明	谷川 昇	放射線科	1,100,000	補 委	文部科学省 科学研究費補助金
手術用ナビゲーションシステムを用いた術者の技能評価と手術教育プログラム	友田 幸一	耳鼻咽喉科	500,000	補 委	文部科学省 科学研究費補助金
虚血性心疾患における酸化ストレスの2面性と抗酸化療法ジレンマに関する研究	岩坂 壽二	第二内科	1,800,000	補 委	文部科学省 科学研究費補助金

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
生体吸収性高分子化合物を用いた肺痿修復剤の開発	小島 博之	放射線科	500,000	補 委 文部科学省 科学研究費補助金
左室拡張能と炎症反応性蛋白による心房細動、脳梗塞の予測と予後に関する検討	宮坂 陽子	第二内科	100,000	補 委 文部科学省 科学研究費補助金
息止め撮影によるFDG-PET画質向上の基礎的検討:呼吸同期撮影との比較	上埜 泰寛	放射線科	1,200,000	補 委 文部科学省 科学研究費補助金
再生医療的アプローチによる肺移植後虚血再還流障害の予防	金田 浩由紀	胸部心臓血管外科	800,000	補 委 文部科学省 科学研究費補助金
脳虚血障害により誘導される神経新生・再生メカニズムの解析	上村 幸子	麻酔科	600,000	補 委 文部科学省 科学研究費補助金
家兎肋軟骨を用いた移植肋軟骨の彎曲変形に関する実験的研究	竹本 剛司	形成外科	1,000,000	補 委 文部科学省 科学研究費補助金
ファーマコゲノミクス情報に基づいた医薬品の有効性及び安全性評価系の開発と医薬品開発への応用	奥川 学	精神神経科	999,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究	岡崎 和一	第三内科	12,600,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
難知性痺疾患に関する調査研究	岡崎 和一	第三内科	1,000,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
「重症クローン病患者に対するタクロリムス治療」に向けての臨床試験の実施に関する研究	岡崎 和一	第三内科	4,000,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
小児等の特殊患者に対する医薬品の製剤改良その他有効性及び安全性の確保のあり方に関する研究	石崎 優子	小児科	500,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
希少がん(悪性脳腫瘍)の個別適正化治療のためのTRI(Translation Research Information)システムの構築	浅井 昭雄	脳神経外科	2,000,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波凝固療法に関する研究	谷川 昇	放射線科	1,000,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
リハビリテーション患者データバンク(DB)の開発	吉田 清和	リハビリテーション科	100,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
発達期における骨格系と脳脊髄液循環動態の発生的特性に基づく高次脳脊髄機能障害の治療および総合医療に関する研究	稲垣 隆介	脳神経外科	300,000	補 委	厚生労働省 精神・神経疾患研究 委託費
前立腺手術周術期管理の標準化に関する研究	松田 公志	泌尿器科	500,000	補 委	厚生労働省 長寿医療研究委託費
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計29件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
 2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
 3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International immunology 20(7):811-818,2008	Bam32: a novel mediator of Erk activation in T cells.	Miyaji m	血液呼吸器膠原病内科
International immunology 20(10):1321-1329, 2008	Mycobacterium bovis Bacillus Calmette-Guerin suppresses inflammatory Th2 responses by inducing functional alteration of TSLP-activated dendritic cells.	Yokoi T	血液呼吸器膠原病内科
Journal of immunology 181(8):5340-5349, 2008	Imidazoquinoline acts as immune adjuvant for functional alteration of thymic stromal lymphopoietin-mediated allergic T cell response.	Torii Y	血液呼吸器膠原病内科
Leukemia & lymphoma 49(1):113-121,2008	The expression of anamorsin in diffuse large B cell lymphoma: Possible prognostic biomarker for low IPI patients.	Fukuhara S	血液呼吸器膠原病内科
Modern rheumatology 18(4):407-410,2008	Successful treatment with plasma exchange in adult-onset Still's disease with hyper-IL-18-naemia and hyperallergic state.	Ozaki Y	血液呼吸器膠原病内科
Platelets 19(3):192-198,2008	Significance of microparticles in progressive systemic sclerosis with interstitial pneumonia.	Ozaki Y	血液呼吸器膠原病内科
実験医学 26(20):3229-3235, 2008	樹状細胞を介する免疫応答制御 6.樹状細胞サブセットによるOX40リガンドおよびICOSリガンドを介する向炎症・抗炎症免疫応答の制御	福原 資郎	血液呼吸器膠原病内科
日本臨床免疫学会誌 31(1):56-60,2008	縦隔気腫を合併した多発性筋炎・皮膚筋炎の3症例	尾崎 吉郎	血液呼吸器膠原病内科
臨床免疫・アレルギー科 50(4):486-492, 2008	OX40リガンドによるTr1細胞誘導の制御	福原 資郎	血液呼吸器膠原病内科
American Journal of Gastroenterology 103(9):2401,2008	Improved polyp detection: Narrow-band imaging colonoscopy with a transparent retractable extension device.	Matsushita M	消化器内科
American Journal of Gastroenterology 103(6):1569-1570, 2008	Effective injection site on endoscopic injection therapy for postsphincterotomy bleeding: apex or oral?	Matsushita M	消化器内科
American Journal of Gastroenterology 103(6):1568-1569, 2008	Much colonic surface visualization by a standard colonoscope with a transparent hood.	Matsushita M	消化器内科
American Journal of Gastroenterology 103(12):3218-3219, 2008	"Short" double-balloon enteroscope for diagnostic and therapeutic ERCP in patients with altered gastrointestinal anatomy.	Matsushita M	消化器内科
American journal of gastroenterology 103(7):1834-1835, 2008	Refractory autoimmune pancreatitis: azathioprine or steroid pulse therapy?	Matsushita M	消化器内科
American journal of gastroenterology 103(3):595-596, 2008	Are regulatory molecules for T cells involved in the development of autoimmune pancreatitis?	Okazaki K	消化器内科
Digestive Diseases and Sciences 53(2):594-595, 2008	Brunner's gland hamartomas: endoscopic submucosal dissection versus snare polypectomy.	Matsushita M	消化器内科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Digestive Diseases and Sciences 53(2):592-593, 2008	Dermatomyositis accompanied by bleeding esophageal diverticula or intramural pseudodiverticulosis?	Matsushita M	消化器内科
Digestive Endoscopy 20(4):213-216,2008	Characteristic intraductal ultrasonographic features of portal biliopathy.	Ikeura T	消化器内科
Endoscopy 49(8):706,2008	Is closure of large mucosal defects after endoscopic mucosal resection and endoscopic submucosal dissection truly needed?	Matsushita M	消化器内科
Endoscopy 40(12):1055,2008	Detection of colorectal polyps behind the folds: A transparent hood or the third eye retoscope?	Matsushita M	消化器内科
Endoscopy 40(10):875-876, 2008	Small papilla: another risk factor for post-sphincterotomy perforation.	Matsushita M	消化器内科
Gastroenterology and Hepatology 4(6):417-426, 2008	Recent advances in autoimmune pancreatitis	Okazaki K	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy 68(4):812-813, 2008	Closure of post-EMR mucosal defects: to need or not to need, that is the question.	Matsushita M	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy 68(4):811,2008	Association of hyperamylasemia and longer duration of peroral double-balloon enteroscopy: present and future.	Matsushita M	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy 68(3):572-573, 2008	Endoscopic injection therapy for a bleeding exposed vessel in Crohn's disease.	Toyonaga T	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy 67(7):1211-1212, 2008	Diagnosis of peritoneal carcinomatosis: transgastric versus transrectal EUS-guided FNA or percutaneous paracentesis.	Matsushita M	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy 67(1):191,2008	Endoscopic snare resection of papillary-type early bile duct cancers.	Matsushita M	消化器内科
Gastrointestinal Endoscopy 67(1):189-190, 2008	Endoscopic band ligation for cardiac variceal bleeding: safe or fatal?	Matsushita M	消化器内科
Gut 57(9):1334,2008	More polyp detection: narrow-band imaging or a transparent hood?	Matsushita M	消化器内科
Inflammatory Bowel Diseases 14(5):728-730,2008	Crohn's disease accompanied by purulent discitis and psoas abscesses.	Sumimoto K	消化器内科
Inflammatory bowel diseases 14(6):826-838,2008	Subcutaneous adipose tissue-derived stem cells facilitate colonic mucosal recovery from 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid (TNBS)-induced colitis in rats.	Ando Y	消化器内科
Internal Medicine 47(12):1161,2008	Effective "Coca-Cola" therapy for phytobezoars.	Matsushita M	消化器内科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Gastroenterology 43(10):809,2008	Narrow-band imaging colonoscopy with a transparent hood for more polyp detection.	Matsushita M	消化器内科
Journal of gastroenterology 43(6):409-418, 2008	Recent advances in autoimmune pancreatitis: concept, diagnosis, and pathogenesis.	Okazaki K	消化器内科
Scandinavian Journal of Gastroenterology 43(8):1016-1017,	Complete endoscopic resection of large sessile or flat colorectal polyps with high-magnification chromoendoscopy or endoscopic submucosal dissection.	Matsushita M	消化器内科
Gastroenterological Endoscopy 50(4):1109-1114, 2008	パルミチン酸デキサメタゾンの静注が有効であった単純性潰瘍の1例	島谷 昌明	消化器内科
肝・胆・膵 56(2):215-221, 2008	【自己免疫性膵炎の最近の進展】自己免疫性膵炎の診断 活動度評価	岡崎 和一	消化器内科
胆と膵 29(7):667-671, 2008	膵・胆管合流異常を有した胆管拡張症に対する胆管十二指腸吻合術40年後に発症した胆管癌の1例	住本 貴美	消化器内科
日本消化器病学会雑誌 105(4):486-493,2008	【自己免疫性膵炎の新展開】自己免疫性膵炎の診断 海外とわが国の診断基準の比較	岡崎 和一	消化器内科
日本大腸検査学会雑誌 25(1):56-60,2008	当院における大腸内視鏡検査の臨床的検討 高齢者群と非高齢者群の比較	藤井 寿仁	消化器内科
分子消化器病 5(2):170-177,2008	消化器疾患の分子生物学 自己免疫性膵炎(IgG4 disease)	岡崎 和一	消化器内科
分子消化器病 5(1):82-87,2008	シグナル伝達を理解するために必要な知識 HGFによるシグナル伝達	岡崎 和一	消化器内科
臨床研修ブラクティス 5(6):54-58,2008	【病棟当直でこんな症状を訴えられたら やっておくべきこと・やってはいけないこと】下痢をした	岡崎 和一	消化器内科
臨床消化器内科 23(10):1457-1466, 2008	【膵炎診療をめぐる最近の動向 ガイドライン、診断基準を含めて】自己免疫性膵炎の臨床診断基準 現状と問題点	岡崎 和一	消化器内科
Acta chirurgica Belgica 108(1):52-57,2008	Intestinal transplantation: from the laboratory to the clinics.	Takahashi K	外科
American journal of physiology. Gastrointestinal and liver physiology 294(1):G236-G244,2008	Protection of transplant-induced hepatic ischemia/reperfusion injury with carbon monoxide via MEK/ERK1/2 pathway downregulation.	Toyokawa H	外科
Annals of hematology 87(10):797-807, 2008	Contribution of neural cell adhesion molecule (NCAM) to hemopoietic system in monkeys.	Okazaki S	外科
Anticancer research 23(3B):1749-1756, 2008	Impact of fresh frozen plasma on hepatectomy for hepatocellular carcinoma.	Kaibori M	外科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer chemotherapy and pharmacology 61(3):509-514,2008	A phase II study of trastuzumab and capecitabine for patients with HER2-overexpressing metastatic breast cancer: Japan Breast Cancer Research Network (JBCRN) 00 Trial.	Yamamoto D	外科
Cancer investigation 26(4):385-390,2008	FKBP51 expressed by both normal epithelial cells and adenocarcinoma of colon suppresses proliferation of colorectal adenocarcinoma.	Mukaida H	外科
Clinical and experimental immunology 154(2):285-293,2008	High mortality rate of (NZW x BXS)F1 mice induced by administration of lipopolysaccharide attributes to high production of tumour necrosis factor- $\alpha$ by increased numbers of dendritic cells.	Mukaida H	外科
Clinical and experimental immunology 152(1):153-162,2008	Prevention of graft-versus-host disease by intrabone marrow injection of donor T cells: involvement of bone marrow stromal cells.	Miyake T	外科
Digestive diseases and sciences 53(3):850-855, 2008	Liver Regeneration in Donors Evaluated by Tc-99m-GSA Scintigraphy after Living Donor Liver Transplantation.	Kaibori M	外科
European journal of pediatrics 167(1):103-105,2008	Pentalogy of Cantrell with a double-outlet right ventricle: 3.5-Year follow-up in a prenatally diagnosed patient.	Takada K	外科
HPB 10(4):289-295,2008	Long-term outcome of hepatocellular carcinoma patients who underwent liver resection using microwave tissue coagulation.	Satoi S	外科
Hemoglobin 32(3):287-296,2008	Analyses of expression of cytoglobin by immunohistochemical studies in human tissues.	Mukaida H	外科
Hepato-gastroenterology 55(8):2151-2156, 2008	Risk factors for early death due to recurrence after resection of large hepatocellular carcinomas	Kaibori M	外科
Hepatology 47(2):686-697,2008	Natural antisense transcript stabilizes inducible nitric oxide synthase messenger RNA in rat hepatocytes	Matsui K	外科
Immunobiology 213(6):455-468,2008	Facilitation of hematopoietic recovery by bone grafts with intra-bone marrow-bone marrow transplantation.	Okazaki S	外科
Immunobiology 213(5):427-435,2008	Administration of granulocyte colony-stimulating factor to recipients followed by intra-bone marrow-bone marrow transplantation accelerates acceptance of allogeneic bone marrow cells in mice.	Mukaida H	外科
Journal of hepatology 48(2):289-299,2008	Na(+)/H(+) exchanger inhibitor, FR183998, has protective effect in lethal acute liver failure and prevents iNOS induction in rats.	Kaibori M	外科
Journal of surgical oncology 97(3):241-254,2008	Unsuspected gallbladder cancer diagnosed during or after laparoscopic cholecystectomy.	Kwon AH	外科
The Journal of surgical research 145(1):57-65,2008	Protective Effect of Neutrophil Elastase Inhibitor (FR136706) in Lethal Acute Liver Failure Induced by D-Galactosamine and Lipopolysaccharide in Rats.	Kaibori M	外科
Liver transplantation 14(3):346-357,2008	Relative contribution of direct and indirect allorecognition in developing tolerance after liver transplantation	Toyokawa H	外科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原簿論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Nitric oxide : biology and chemistry 18(2):105-112,2008	Edaravone prevents iNOS expression by inhibiting its promoter transactivation and mRNA stability in cytokine-stimulated hepatocytes.	Yoshida H	外科
Nitric oxide : biology and chemistry 18(1):28-36,2008	Rebamipide, anti-gastric ulcer drug, up-regulates the induction of iNOS in proinflammatory cytokine-stimulated hepatocytes.	Tokuhara K	外科
Nitric oxide : biology and chemistry 18(1):19-27,2008	Pitavastatin up-regulates the induction of iNOS through enhanced stabilization of its mRNA in pro-inflammatory cytokine-stimulated hepatocytes.	Hamada Y	外科
Nutrition and cancer 60(5):643-651,2008	Immunological effect of active hexose correlated compound (AHCC) in healthy volunteers: a double-blind, placebo-controlled trial.	Matsui Y	外科
Oncology 74(1-2):37-41,2008	Phase II study of a combination of S-1 and paclitaxel in patients with unresectable or metastatic gastric cancer.	Inoue K	外科
Pancreas 37(2):128-133,2008	A new guideline to reduce postoperative morbidity after pancreaticoduodenectomy.	Satoi S	外科
Pancreas 36(1):e26-e32,2008	Neoadjuvant chemoradiation in patients with potentially resectable pancreatic cancer.	Satoi S	外科
Shock 30(6):734-739,2008	Edaravone inhibits the induction of iNOS gene expression at transcriptional and posttranscriptional steps in murine macrophages.	Yoshida H	外科
Shock 30(6):734-739,2008	Protective effect of FR183998, a Na <sup>+</sup> /H <sup>+</sup> exchanger inhibitor, and its inhibition of iNOS induction in hepatic ischemia-reperfusion injury in rats.	Ishizaki M	外科
Shock 30(2):212-216,2008	Edaravone prevents Fas-induced fulminant hepatic failure in mice by regulating mitochondrial Bcl-xL and Bax.	Kwon AH	外科
Shock 30(2):212-216,2008	Insulin-like growth factor 1 prevents liver injury through the inhibition of TNF- $\alpha$ and iNOS induction in D-galactosamine and LPS-treated rats.	Kaibori M	外科
Stem cells 26(2):330-338,2008	Characterization of Transplanted GFP+ Bone Marrow Cells into Adipose Tissue	Toyokawa H	外科
Stem cells and development 17(4):629-639,2008	Successful acceptance of adult liver allografts by intra-bone marrow-bone marrow transplantation.	Okazaki S	外科
Transplantation proceedings 40(8):2837-2839, 2008	Usefulness of TC-99M GSA Liver Scintigraphy for the Assessment of Recurrent Hepatitis C After Living-Donor Liver Transplantation: A Case Report.	Kaibori M	外科
Transplantation proceedings 40(8):2457-2459, 2008	Usefulness of Tc-99m GSA liver scintigraphy for the evaluation of liver regeneration in donors after living-donor liver transplantation.	Kaibori M	外科
World journal of surgery 32(11):2410-2418, 2008	HA/GSA-Rmax Ratio as a Predictor of Postoperative Liver Failure.	Kaibori M	外科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原簿論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biotherapy 22(3):177-184,2008	免疫賦活成分Lentinan含有食品の切除不能および再発乳癌に対する有効性の検討	松井 陽一	外科
外科治療 99(1):40-47,2008	【癌治療クリニカルパスUpdate】膵臓癌手術	里井 壯平	外科
癌の臨床 54(9):729-733,2008	【外科医が主体のスタンダード大腸癌化学療法】mFOLFOX6 毒性軽減のための工夫	岩本 慈能	外科
小児外科 40(7):843-846,2008	発赤,圧痛および熱感を伴わない頸部膿瘍を反復する症例-第54回小児外科わからん会報告-	濱田 吉則	外科
小児外科 40(7):829-833,2008	新生児外科と周術期管理-Up-to-date 新生児肝芽腫の緊急手術における周術期管理	高田 晃平	外科
小児外科 40(4):395-399,2008	小児内視鏡外科における術中・術後合併症とその対策 術中血管損傷の予防と対策	濱田 吉則	外科
消化器外科 31(5):760-765,2008	【胃癌のすべて】胃癌の治療 胃癌に対する手術 胃全摘後の空腸パウチ間置再建術	中根 恭司	外科
消化器外科 31(12):1763-1772, 2008	手術の王道ト消化管の手術 胃・十二指腸 幽門側胃切除術	中根 恭司	外科
消化器外科 31(11):1709-1715, 2008	広範な肝右葉被膜下膿瘍を呈した急性胆嚢炎の1例	海堀 昌樹	外科
消化器内視鏡 20(3):379-384,2008	胸部食道癌根治切除後、ESDにて切除し得た残存頸部食道表在癌の2例	金 成泰	外科
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 24(2):41-44,2008	便失禁への対応策-外科医から見た対策-	吉岡 和彦	外科
日本消化器外科学会雑誌 41(8):1655-1660, 2008	エホバの証人患者における転移性肝癌切除の1例	海堀 昌樹	外科
日本臨床 66(増刊5胃癌):586-590,2008	【胃癌 基礎・臨床研究のアップデート】再発・転移 腹膜播種 早期発見法 Second look laparoscopy	井上 健太郎	外科
日本臨床 66(増刊5胃癌):355-359,2008	【胃癌 基礎・臨床研究のアップデート】治療 現状・動向・評価 各論:胃癌治療法 現状・動向・評価 外科的治療法 最近の知見、評価、動向 縮小手術	中根 恭司	外科
日本臨床外科学会雑誌 69(6):1465-1469, 2008	肝膿瘍に続発した細菌性眼内炎・腸腰筋膿瘍・脛骨骨髓炎の1例	中根 恭司	外科
看護に役立つ疾患・症候事典 424-427,2008	消化管間質腫瘍	中根 恭司	外科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。